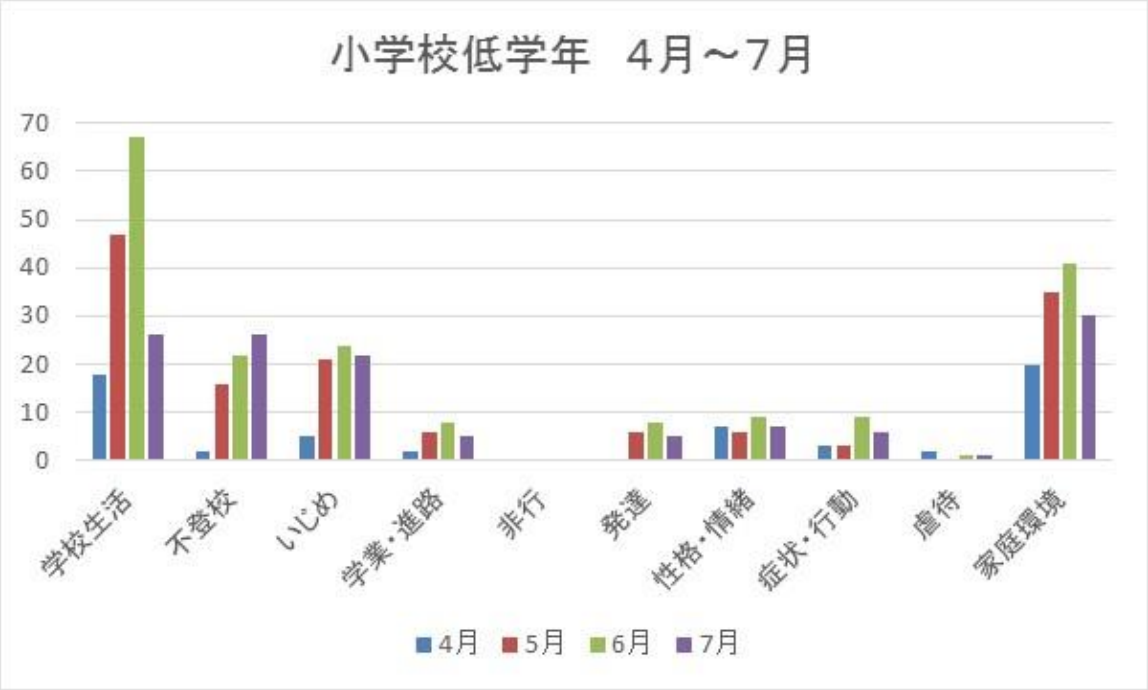
「よい子の電話教育相談」に係る
統計及び指導のポイント等

～今後の生徒指導・教育相談に活用してください～

（令和元年度、２年度、３年度　４月～７月統計結果から）

埼玉県立総合教育センター指導相談担当

小学校低学年



統計結果・相談内容から分かること

４月は相談が少ないが、学校生活が落ち着いてくる６月になると、学校生活や家庭環境に関する相談が増える。また、不登校については５月から相談が増え始め、７月にピークを迎える。

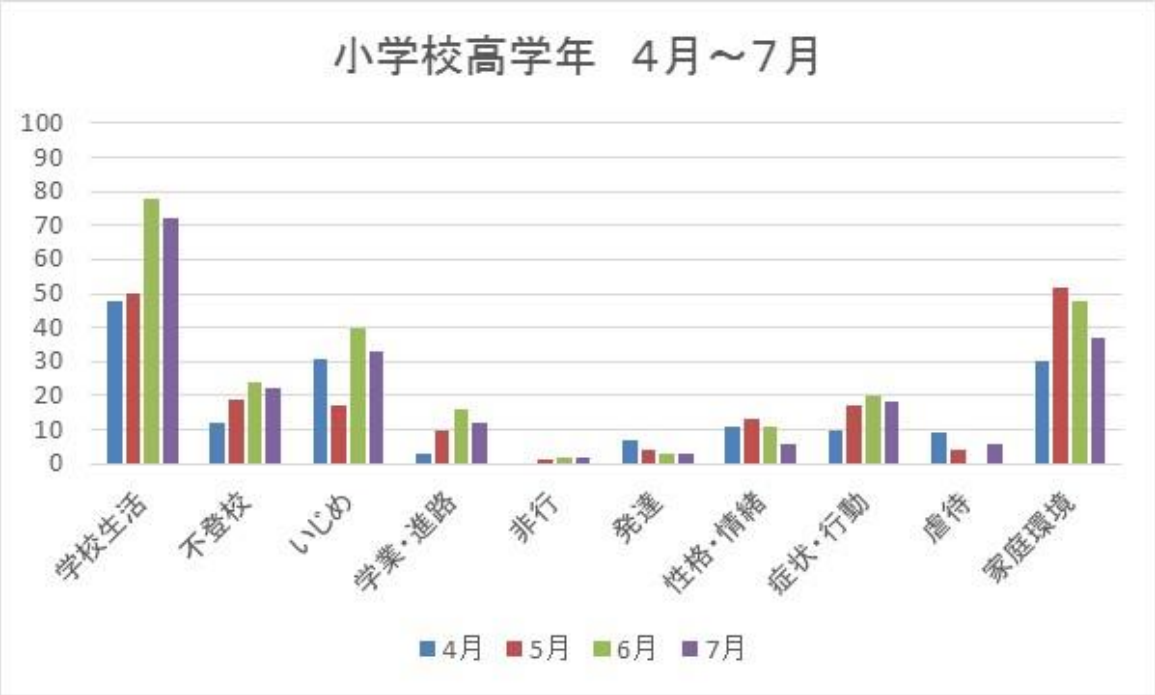
【指導のポイント】

学期末に向けて相談件数が増えていき、６月に相談件数が急増する。６月の学校生活に関する相談では、４月の終わり頃から見え始めてきた問題に、学校と相談しながら対応してきた保護者が、問題解決の兆しが見えないことから不満を持つというケースが多い。不登校の未然防止も含め、児童生徒や保護者との信頼関係の構築と早期対応が重要である。

（相談例）

・仲が良かった友達とクラスが別になり、子供が落ち込んでいる。どのように声を掛けたらよいか。
・登校班でトラブルが続いている。学校も対応しているが、改善が見られない。
・４月から付き添い登校をしているが、そろそろ次のステップに進みたい。
・学校に行きたがらない日が増えてきた。これからどう声をかけてよいか分からない。

小学校高学年



統計結果・相談内容から分かること

小学校低学年と比べ、早い段階での相談が多い（学校　生活、いじめ、家庭環境）。学校生活に関する相談では、小学校低学年の頃は少なかった「宿題」「指導方法」「通知表」などの相談が増える。学校での出来事について子どもから聞いて不信感を抱き、「意見をしたい」といった相談が多い。

【指導のポイント】

いじめについては、新たに始まったいじめではなく、低学年の頃にいじめに遭っていたが、また別の児童からいじめられるようになったというものや、もう何年もいじめが続いていて解消しない、といった相談が多い。クラス替えはするものの、学年としては長い期間同じ集団で生活するため、人間関係で問題を抱えてしまう児童が多い。いじめ防止に向けた継続的な取組も重要となる。

（相談例）

・低学年から続くいじめが解消されない。
・仲良しグループから外れ、陰口を言われるようになった（新学期開始８日目から）。
・水泳の授業の指導に疑問がある。

中学１年生

統計結果・相談内容から分かること

不登校の相談が６月に急増する。学校生活に対する相談は、中１～中３の中で最も件数が多い。内容は友達関係での悩みとなっている。友達関係の相談の中には、生徒本人からの相談で、異性とうまく話せない等がある。

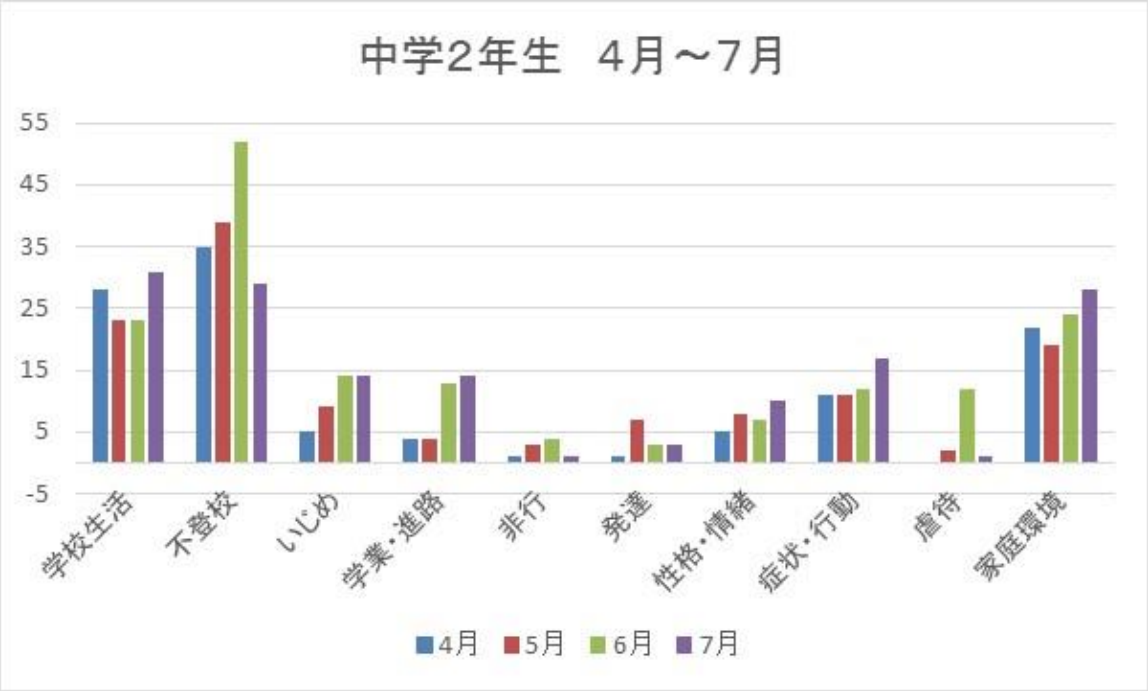
【指導のポイント】

不登校の相談内容を見ると、ゴールデンウィーク明けから学校に行くことを渋りだしたというものが多い。また、不登校の要因については、授業がつまらない、成績が悪い、宿題ができていないなど、学業の躓き等と相談者がとらえているものが多い。中学校入学後、安全・安心な居場所であり、「自分は大切にされている」と生徒が実感できる学級づくりを目指したい。

（相談例）

・小６の頃から不登校であったが、ゴールデンウィーク明けからまた学校に行けなくなった。
・子供が、友達とのトラブルで学校に行かなくなった。
・新しく友達ができないことに悩んでいる。
・中学校で初めて一緒の学校になった友達との関係で悩んでいる。
・保護者であるが、学校に相談するタイミングが分からない。

中学２年生



統計結果・相談内容から分かること

学校生活の相談が減少する。１年生で多かった友達関係の相談がほとんど見られなくなる。人間関係が安定してくる時期と思われる。不登校は４月から徐々に件数が増加し、６月に相談のピークを迎える。

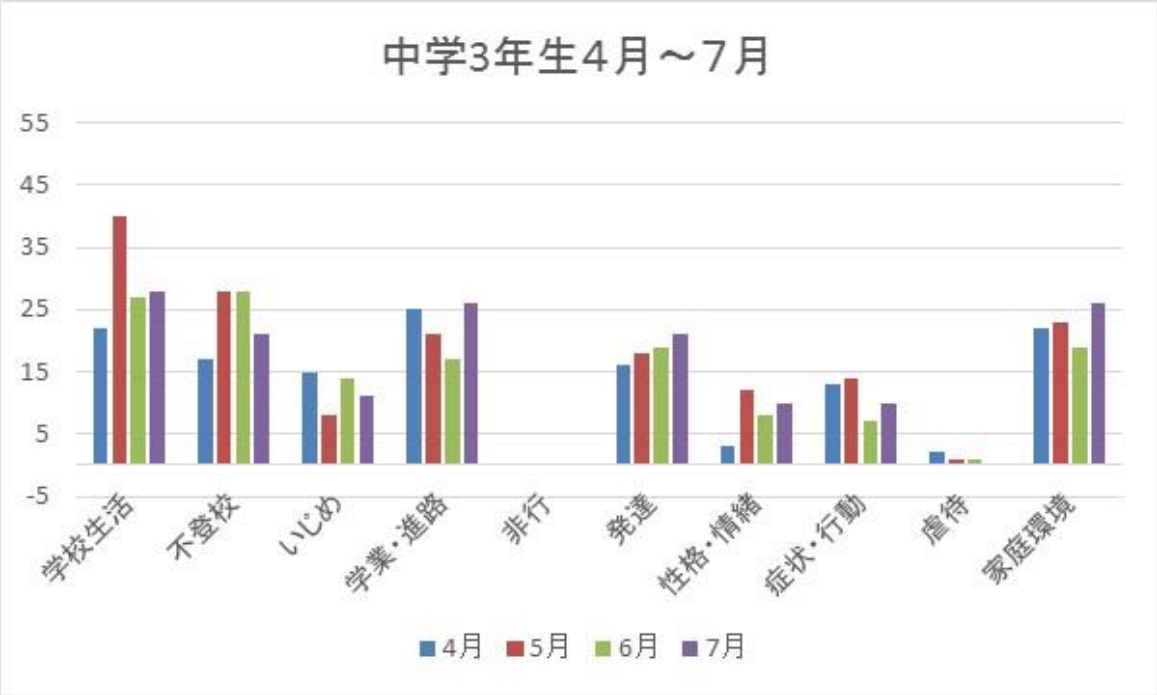
【指導のポイント】

不登校の相談のほとんどが、２年生になってからの新規の不登校ではなく、１年生から継続している不登校の生徒についてである。１年生のときに不登校気味だった生徒が、２年生になり全く登校できなかったというケースも多い。１年生に比べ、人間関係が固定化することから、長期化している不登校の児童生徒への支援体制の再確認を行いたい。

（相談例）

- ２年生になり、１週間は登校できたが、また登校ができなくなった。
- 昨年の夏休み明けから学校に登校できていない。ひたすら子どもの意識が学校に向かうのを待つだけでよいのか悩む。
- 部活動の方針について、納得がいかない。

中学３年生



統計結果・相談内容から分かること

学校生活に関する相談では、部活動での人間関係についての相談が多く、そのことでストレスを抱えている生徒が多い。また、この時期から学業・進路に関する相談が増え、子供と保護者の双方から相談が寄せられている。

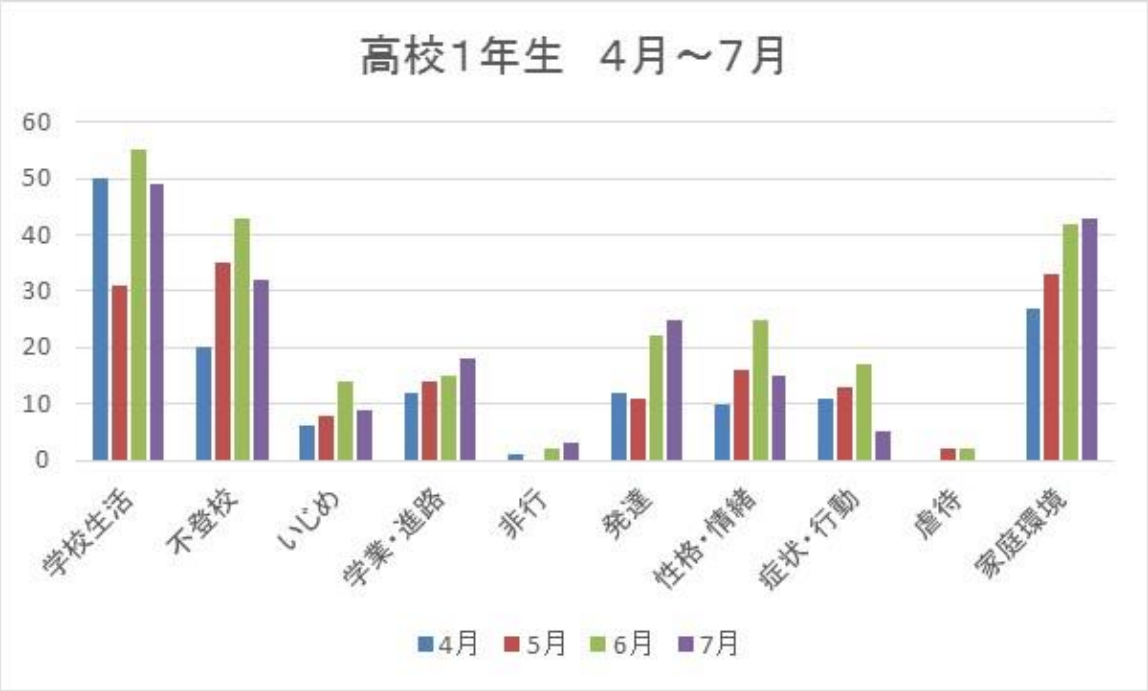
【指導のポイント】

学業・進路に関する相談では、保護者からは子供が勉強をしていない（あせっていない）ことへの不満、子供からは希望する進路に対する保護者の理解がないといった相談が多く、親子間での意識のずれが家庭内でのトラブルになっている。また、進路先を考える際、子供の発達の状況について疑問をもち、進路先について不安になる保護者も多い。生徒・保護者に寄り添った丁寧な進路指導を行い、ときには生徒と保護者の間に立ち調整する役割も求められる。

（相談例）

- 部活動の友達から避けられている気がする。
- 両親が自分の夢について反対してくる。
- 受検を控えているのに、子供の勉強に対する姿勢がなっておらず、見ていてイライラする。
- 子供は勉強が苦手である。発達検査を受けた方がよいだろうか。
- 子供が勉強をしない。親としてどう対応していけばよいか。

高校１年生



（相談例）

・子供がクラスの中で一人になり、学校を休みがちになっている。
・通学が体力的にきつい。学校に行くだけで疲れてしまう。
・部活動の時間が長く、戸惑っている。
・学校からの課題が毎日終わらず、子供が神経質になっている。

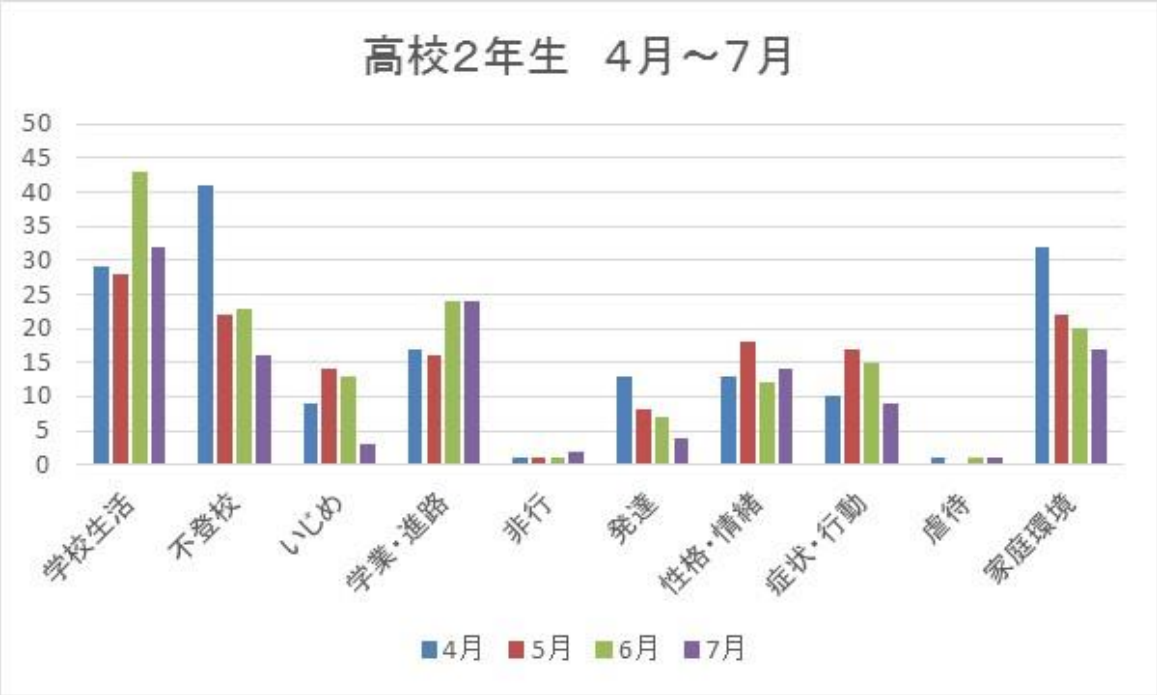
統計結果・相談内容から分かること

学校生活の相談では、友人関係の相談が多く寄せられている。新しい学校での友達づくりがうまくできなかったことによる孤独感が、その後の不登校にも影響を与えていると考えられる相談がある。また、中学からの生活の変化に適応できない生徒も多い。かつては５月から６月にかけてこのような相談が多く寄せられていたが、近年は高校生活のスタート直後に相談が多く寄せられるようになっている。

【指導のポイント】

中学校との違いに戸惑ったり、学習についていけなかったりすることで学校に不満をもち、登校する意欲がなくなる生徒が多い。「部活動が厳しい」「通学が体力的にきつい」「課題が終わらない」などの相談がある。まずは困っている状況をよく「傾聴」し、「受容」する姿勢が求められる。

高校２年生



統計結果・相談内容から分かること

不登校の相談は４月に集中しているが、新規の不登校ではなく、継続している不登校が、学年が変わることで改善すること期待していたものの、改善の兆しが見えないという相談内容である。また、家庭環境の悩みでは、子どもが親から精神的自立を図ろうとしていることへの、保護者の戸惑いについての相談が多い。

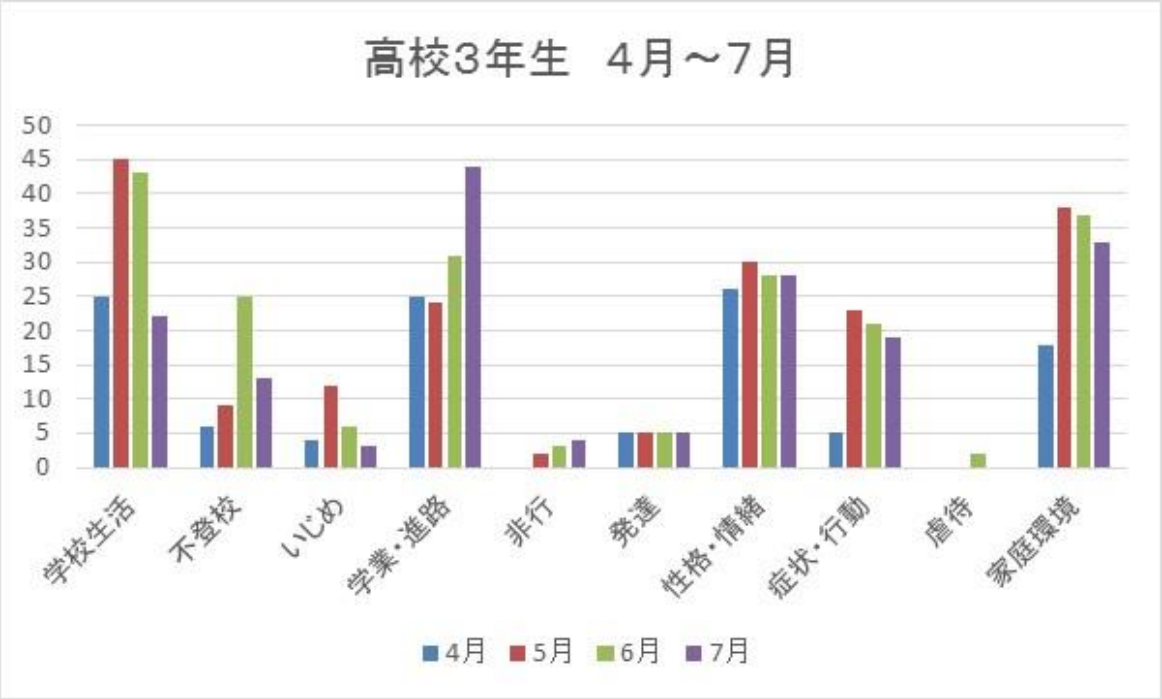
【指導のポイント】

高校３年間で不登校の相談のピークは２年生の４月となっており、この後は相談件数が大幅に減少する。ここを分岐点として、転学又は退学をする生徒が多い。「１年生は最後なんとか頑張れたが…」、という生徒が多い。１年生のときの頑張りを認めつつ、無理のないスタートを切れるようにすることや、新たな目標を立てることも効果的な指導となりうる。

（相談例）

・高校を卒業した後、一人暮らしをしたいと親に相談したら怒られた。
・勉強をしない子供に注意をしたら、「うるさい、どっかいけ」と言われた。
・２月から学校に行けなくなった。新学期になり登校できると思ったが、不登校が続いている。
・１年生はギリギリのところで進級できた。５月の連休までは頑張って登校できたが、その後不登校が続いている。
・中学生の時は不登校であったが、高校生になり登校できるようになった。しかし、２年生で再び不登校になった。

高校３年生



統計結果・相談内容から分かること

高校卒業を控え、学業・進路の相談が多くなる。相談のほとんどが保護者からであるが、もう親が子供に言うという時期ではないと理解しているが、心配であるという相談が多い。学校生活に関する相談が多いが、大きなトラブルではなく、日常の些細なことである場合が多い。

【指導のポイント】

高校卒業に向けて、心理的に落ち着かず、情緒が不安定になっている生徒が多い。その不安定な気持ちを保護者に対してぶつけるといった生徒もいる。特に主訴がないといった相談も多く、誰かに自分の話を聞いてもらいたいといった気持ちが強い。漠然とした将来への不安について、話を聞いてもらえるだけでも、精神は安定する。まずは、相談しやすい雰囲気づくりから始めていきたい。

（相談例）

・友人との会話が上手くいかず、卑屈になってしまう。
・友達関係で悩んでいる。
・勉強をしても成果が出ず、自信が持てない子供のことが心配だ。
・勉強をあまりしていないが、子供に任せて見守ることしかできないのか。
・父親が、子供である自分の進路を勝手に決めてしまう。